

## 市長記者会見記録

日時：2017年 9月26日（火）15時00分～15時27分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：1. 平成29年度（第46回）川崎市文化賞等の受賞者の決定について  
（市民文化局）  
2. 市政一般

### <内容>

#### 《平成29年度（第46回）川崎市文化賞等の受賞者の決定について》

**司会：** それでは、ただいまより市長記者会見を始めます。

本日の議題は、平成29年度（第46回）川崎市文化賞等の受賞者の決定についてとなっております。

それでは、福田市長からご説明いたします。市長、よろしくお願いたします。

**市長：** それでは、平成29年度川崎市文化賞の受賞者が決まりましたので発表させていただきます。

本賞は、昭和47年度の第1回以来、本年度で46回目を迎えます。本年度は、個人・団体合わせて17候補の中から川崎市文化賞等選考委員会において審議をしていただき、資料表紙にありますように5名1団体の方々の受賞を決定いたしました。各賞の贈呈式は11月6日月曜日、川崎市国際交流センターで午後2時から行います。

次に、本年度受賞される方々について説明をさせていただきます。資料1ページをお開き願います。本年度の各賞受賞者の方々の一覧でございます。

次に、個々の受賞者につきまして、その功績概要を申し上げます。

初めに、文化賞でございます。この賞は、教育・学術・芸術・文化活動の各分野で発展に尽力された個人または団体に贈呈するものです。

2ページの小倉美恵子様でございますけれども、地域に伝わる伝統や文化を映画や書籍、講演会で紹介する活動をされており、ドキュメンタリー映画「オオカミの護符」では文化庁映画賞文化記録映画優秀賞などを受賞されました。

4ページの川崎市立坂戸小学校合唱団でございますが、昭和61年に創設され、30年を超える活動実績がある合唱団です。多くのコンテストで受賞実績があり、地域とかわりの中でその歌声を広く届けていらっしゃいます。

続きまして、社会功労賞でございます。この賞は、社会福祉・保健衛生・産業経済・

地域振興の各分野で発展に尽力された個人または団体に贈呈するものです。

6 ページの高野繁様でございますけれども、川崎市眼科医会会長、日本眼科医会会長を務め、川崎から世界の被災地までご活躍なさっています。22年間役員を務められた川崎市医師会では、救急医療対策や学校保健活動などの分野で手腕を発揮されています。

続きまして、スポーツ賞でございます。この賞は、国際大会等で優秀な成績を残された個人または団体、並びにスポーツの普及・振興に尽力された個人または団体に贈呈するものです。

8 ページの川島哲男様でございますけれども、49年間にわたって川崎野球協会副理事長・理事長を務め、全国レベルの大会で数々の優勝実績がございます。

続きまして、アゼリア輝賞でございます。この賞は、文化・芸術の各分野において、現在活動中の若年層及び中堅層で、さらに今後の活躍が特に期待される個人または団体に贈呈するものです。

10 ページの新井卓様でございますけれども、核をテーマとし、ダゲレオタイプで撮影された写真集『モニュメント』で、昨年、第41回木村伊兵衛写真賞を受賞されました。

12 ページの桑原あい様でございますが、プロのジャズピアニストとして活動され、本場モントルー・ジャズ・フェスティバル、ソロピアノコンペティションでファイナリストに選ばれました。なお、今年のかわさきジャズでは11月16日にご出演をいただく予定でございます。

以上で説明を終わらせていただきます。

**司会：** ありがとうございます。それでは、ただいまご説明いたしました平成29年度（第46回）川崎市文化賞等の受賞者の決定についての質疑に入らせていただきます。なお、市政一般に関する質疑については、本件の質疑が終了後、改めてお受けいたします。

それでは、進行につきましては、幹事社様、よろしく願いいたします。

**幹事社：** 幹事社からはないので、何かありましたら。

**司会：** いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、本件につきましては終了いたします。ここで関係理事者が退席をいたします。

**(市政一般)**  
**《衆議院選挙について①》**

**司会：** 続きますして、市政一般に関する質疑応答をお願いいたします。進行につきましては、改めますして、幹事社様、よろしく願いをいたします。

**幹事社：** 改めますして、幹事社です。よろしく願いします。

まさにきのういろいろありまして、1つは解散・総選挙が正式に首相から発表となつて、一応名目は、消費税率の10%引き上げの財源を社会保障とか、そういったものに使うということ、それに伴つて財政再建の目標が先延ばしされるというようなことだと思ふんですが、まず、この解散・総選挙の首相の決断について、まず一言、改めてお伺いできればと思ふんですが。名目も含めて。

**市長：** 解散は内閣が決定することになっているので、それについてあまだこうだ言うのもおかしい話だと思ふんですが、どういうことで国民に信を問うのかということはいしかり説明されるべきものだと思いますので、そのことについて、やはり解散を決定された責任者である総理が、しかりと国民の皆さんに、この意味というものをしかりと説明されるんだらうと思ふし、そうでなければならぬだらうと思ふています。

**《小池都知事の新党結成について》**

**幹事社：** 同じ日に、ようやく新党の関係で、小池さんが正式に代表になつて立ち上げるということで、川崎を含めて県連もそういった動きがあつて、そういった、いよいよ立ち上がったということについての、かつて市長も仕えられた松沢さんも一緒に入つてやられていかれると思ふんですが、その辺を踏まえて所見というか、改めて伺えればと。

**市長：** ちょっと国政選挙についてコメントするのはややちょっと、特に各政党のことについてというのは、ちょっと控えたいとは思ふます。

**幹事社：** わかりました。昨日、県知事が皮肉まじりに、一度、例の都民ファーストの時も小池さんが1回代表になつて、その後、選挙が終わつたら外れて、今回も選挙が終わつたら外れるんじゃないかみたいな話も、やや皮肉まじりにおっしゃっていましたけれども、そういった見解についてはいかがでしょうか。なかなか難しいですか。

**市長：** そうですね、何でしょう。まあ、これまでも首長の中で国政に関わられた方はいらしやるので、これまでも自分はそういうところに関わらないし、やるつもりもないしということで、私自身はとにかく市政に専念するということですので。あんまり言うと、批判にも肯定にもなつてもよろしくないんで、ちょっと控えたいと思ふ

ますね。

### 《川崎市長選について①》

**幹事社：** なかなかお答えづらいのはわかりました。そういった中で、いずれにしても、この前も決起大会の話を伺ったんですけれども、改めて、正式に解散・総選挙になって、市長選のほうも投票率がそれなりに上がるんだらうという観測があって、逆に、でも、その一方で、これだけ国政の、衆院選がいよいよ本格化する中で、埋没してしまう恐れもある。この前、先日、マニフェストも改めて発表されましたけれども、その辺も踏まえて、どのようにお考えを市民の方々に伝えていきたいのか、そのあたりを改めて伺えればと思います。

**市長：** やっぱり埋没する感は否めないと思います。ゆえに、逆に皆様方をお願いしたいのは、とにかく市政の課題についてしっかりと伝えていただいて、要するに、報道機関の方々がしっかり伝えていただかないと、市民には届かないということだと思いますので、4年に1回の大切な機会ですから、ぜひ報道の皆様にはこれをお願いしたいと思います。私を含めた各候補者が、どういうことを次の4年間でやっていきたいのかということ、より、なるべく詳細に伝えていただきたいというのは、これはまさにお願いでございます。

そうしないとなかなか盛り上がらない、報道も衆議院選挙一色、あるいは新しい政党の新党が云々ということに、やや、そこかと、まともな有権者は思っているんじゃないかと思えますし、まともな読者はそう思っていると私は思います。ぜひお願いしたいと思います。

**幹事社：** ありがとうございます。私からは以上です。

では、各社、どうぞ。

**記者：** 改めて、この前の決起集会の後のぶら下がりでもいろいろコメントはしていただいているんですけど、先週、相次いで2人の候補者が出馬会見をされて、目指すべき4年間の市政運営というか政策なんかもいろいろ発表されたんですけれども、そういったものを踏まえて、今さっき、詳細な政策論争が深まるような報道をお願いしたいということをおっしゃったんですけど、ほかの候補者の政策というか、その辺をどんなふうに見ておられるのかというのを改めてお聞きできればと思います。

**市長：** それぞれの、共産党の推される候補者のことについては一定のというか、これまでの主張というのはいろんなところでされて、共産党自体がされていますので、

何となく政策の方向性はわかるなと思いますけれども、もう一人の市議の方の話というのは、ちょっと政策がまだ僕もわからないので。どういうことを言われるのかなというのには報道ベースしかわからないので、何ともコメントは控えたいと思います。

大丈夫ですか。

**記者：** 大丈夫です。

### 《衆議院選挙について②》

**記者：** きのうの安倍総理の解散の話の時に、自民党幹部会で冒頭解散という手続、スケジュールを決めていると。いわゆる消費税の使途についての信任を問うということについての冒頭解散という動き、これは市長にとって、議会制民主主義ということとを大事にされている市長にとって、どのように映ったかを教えていただければと思うんですけども。

**市長：** そうですね、非常にコメント難しいですね。コメントが難しいというか、どう頭の整理をするかということなんですけど、選挙をやるには、みんな任期が満了するか、あるいは何でこの選挙をやるんだということがちゃんとわからないと、やや戸惑いがあるのは、僕のご感覚としてそう思います。これ、国民の皆さん、何を聞かれているのかなというのは、消費税の使い道って言われてもねという、そこなのかって。何かみんな、頭の中にはてな、はてなっていうマークが結構ついているんじゃないかなと思うんですね。

だから、それぞれ政策をパッケージで早く出して議論しないと、何のためにやっているのかがよくわからないという選挙をやるのは本当に、ちょっと意味がなくなるといことだと思えますから。解散のないような地方議会だとか、インピンジされない限り任期満了する首長選挙と違って、衆議院の場合はどのタイミングでやるかというのは内閣が解散するから、そのときに、何ををもってというのが前提じゃないですか。だから、そこがややみんな腑に落ちていないんじゃないかなという気はしますから、そういう人たちが多い状況というのは決して好ましいことではないので、各政党が早く公約のパッケージを出すべきだと思っています。

**記者：** ありがとうございます。そこで出てくるのが消費税増税の上積み分の使い道というのは、あらかじめ、もう決まっておりましたよね、赤字国債解消。それと社会保障制度にそれぞれ、社会保障制度に1億円とか、決まっていたのに対して、新たな使い道ということで、高等教育の軽減とか幼児教育の無償化ということを打ち出したことによりまして、さらに自治体に配分する消費税上積み分の使い道がまた増えてし

まったということによって、自治体財政に何らかの重荷になるのではないかという観測が、今しきりに流れております。今日の総務大臣、野田さんの会見でも、地方財政への不安をなくすように努めたいみたいな根拠のないお答えになってしまいました。今こそ、市長から、消費税の新たな用途による地方財政への負担が増えるのか増えないのか、それに対して要望があったらお聞かせいただきたいんですけども。

**市長：** そうですね。これは単純に、いわゆる自治体のところの消費税分が減ることなのか、あるいは、例えば子育て施策によって、そこが充実させられることによって、むしろ自治体の取り組むべき部分が少しは軽減されるのか。今後の取り組み方によって影響が出てきますので、現時点で、その影響を、こうじゃないかというふうに心配したり期待したりするというのは、現時点ではちょっと難しいと思いますので、そういう意味では、注視していきたいとしか。なるべく影響がないようにしてほしいというのは、この前、先送りにされたことによって、かなりの大きな影響というのは財政的に川崎市にも発生していますので、そういったことが続かないようにしていただくということが大事だとは思っています。ですから、用途がより明確に、あるいは地方の財政にとってどういう影響が出てくるのかというのは、これは注意深く見守っていきたいとは思っています。

**記者：** ありがとうございます。

#### 《川崎市長選について②》

**記者：** 先ほど、今、市長がおっしゃられた、市長選が国政選挙に埋もれないためには、マスコミ、メディアの力が必要というふうにおっしゃられましたが、それはもちろんそうだと思います。一方で、候補者たちが選挙戦を戦う中で、候補の方が埋没させないために、どのように、どのような選挙活動ができるかというのをお聞かせください。

**市長：** とにかく私自身は、10月6日までは議会があるので、それ以前の段階で、あまり政策をばんばん市民の皆さんにお伝えする直接的な機会というのはないので、限られた2週間の選挙戦の中で、しっかりと細かく市民の皆さんに何を訴えるのか、何が争点なのかということ細かく丁寧に話していくことに努めたいと思います。

2週間、14日間あるといっても、7区あったら、普通考えたら1区2日間しかないんですね。2日間しかない中でどれだけ丁寧にやれるかというのは、それは時間の限り、最大限に僕自身は頑張りたいとは思いますが。

**記者：** 正確には、決起集会でもおっしゃられた、選挙活動を報道で行っていくとい

うことですよ。

**市長：** そうですね。だから、この政策についてはどうなのというのを対比してもらうとか、わかりやすく取り上げていただきたいと思いますね。なかなか、すごく難しいんですよ。私のマニフェストを見てくださいといっても、どれだけの人が見れるのか。あるいは、ホームページでも、もちろん、各候補やられると思いますが、それを見比べてもらってということの努力は、やっぱり有権者の皆さんにもしていただきたいと思います。

**記者：** ありがとうございます。

**記者：** 選挙戦で、今おっしゃられたホームページとか、あとSNSなんかを活用されようとお考えですか。するとしたら、どのようにしようと思っていらっしゃいますか。

**市長：** ちょっとまだ、SNSをどうやって活用するかというのはまだわかりませんが、なるべく、どこでしゃべりますよとか、私の話をぜひ聞きに来てくださいという広報は、SNSなんか有効なんじゃないかと思いますので、そういうのはちゃんとやっていきたいと思いますし、じっくり政策を見ていただくという意味では、ホームページをしっかり活用していきたいと思います。

**記者：** ありがとうございます。

#### 《マニフェストの評価について》

**記者：** 今期のマニフェストを検証していた自治創造コンソーシアムでしたっけ、が4年間の評価として出されていて、ちょっと見ていると、100点満点でいうと57点、結構辛目の、厳しく、細かく見ておられるなと思ったんですけども、それは一有識者の会議の評価でしかないと思うんですけども、その評価に対する受けとめと、いろいろ見ておられると思うんですけども、自分としては、もうちょっとここはいいんじゃないかとか、いろいろな思いがあると思うんですけども、またこの課題は確かに課題だと、次につなげていかなきゃいけないなという、いろんな感じ方をされているのかなと思うんですが。

**市長：** そうですね。

**記者：** 改めて、その辺を聞かせてもらってもいいですか。

**市長：** 1つは、文化専門官とか、着手できていないところというのは明らかに点数が低いので、それはなめしていけばそうなるんだろうと思います。

一方で、見てて、「ええっ？」というのは結構あって、そもそも中間評価と最終評価の評価者が違うということ自体も、それって、評価、大丈夫なのっていう、客観的評価と言いながらそういう話だったりとか、僕もヒアリングを受けましたけど、非常にマニフェストを古典的に見ているなというものだったりとか、あるいは評価によってはゴールポストを動かしているみたいなのもあるので。要は、4月1日の待機児童の話は、通年でゼロじゃないといけないみたいなふうに、「ええっ？」って、そんなの、いつ誰が言ったんだという。だから、世の中が変わってきたのでこういう評価にしますとかって、それって、そもそもゴールが動いちゃっているじゃないかと。だから、諸々ありますけれども、それは1つの機関の評価だというふうには受けとめさせていただきます。と思います。

**記者：** 結構評価自体、ちょっとご不満という感じですかね、今の感じだと。

**市長：** 不満というか、そういう評価もあるんじゃないかぐらいに思っています。

**記者：** 何か、次にこれはつなげなきゃいけないなという、参考になったなというご指摘とかというのは何か。そんなにないのかな。市のほうからいろいろ資料を提供して、やってもらっているんですね。

**市長：** ですから、僕は、マニフェストは1つのツールだと思っているので、要は、こういうふうに発表したことによって、今度もそうですけれども、確実に議会で取り上げられ、市民の皆さんからも、それ、どうなったんだと問われ続けること自体が非常に重要なことなので、そういった形の公約というのは、今回も発表したようにこれからもやり続けなくちゃいけないと思いますし。

点数を上げようと思ったら非常に簡単な話で、総合計画みたいなマニフェストを書けば、確実に、現職であれば100点に必ず近いようなものってできちゃうので、やれると思うんです。しかし、それは違うだろと思いますので、より前に進めるためのチャレンジングな公約というものには取り組んでいきたいと思います。

**記者：** その意味でいうと、今回、決起集会で配られた、これ、マニフェスト、資料で。これは簡易版ということなんですか、それとも、また、例えば財源とか工程表とか……。

**市長：** いやいや、それを詳細版、詳細というか、これにします。これ以上、深く書いていくと、要するに、古典的な考え方でいえば、手法と財源と、という、ものすごく手法にまで縛りをかけていくと、そもそもやろうとしていることと手段が違うだけで何か違うじゃないかと。でも、それは、僕からすると、マニフェストそのものの方が目的化してしまつてと、ツールとしての機能も果たさなくなってくるんじゃないか

と思っているので、やや、何ていうんですかね、いわゆる自治創造コンソーシアムがやったような、ああいう古典的なのとか、ああいう評価のやり方ではこれからも書くつもりはないですし、やらないと思います。

もし、ああいうのが評価ということであれば、全国一律に、統一的なマニフェストのフォーマットにすべきだと思いますね。そうじゃないと、ある意味、総合計画みたいなのを書いたほうが、これは間違いなく評価されるんだろうなと思ったら、それに合わせていくことになるので。でも、僕は、それはあんまり意味がないと思います。

**記者：** いや、何か、もうちょっと細かく書かれてもいいのかなという気はしたんです、現職の立場からいうとですね、マニフェスト自体のづくりも。そこはどうなんですか。すごく削る努力をされたって感じでおっしゃっていましたが。

**市長：** そうですね。詳しく書けば書くほどいろいろあると思うんですが、要は、ほんとに分厚い冊子で配りたいという部分もあります。ただ、それってほんとに見るのかなというぎりぎりの中でそれを作っています。あんまり抽象的過ぎてもだめだし、あんまり詳しく書いても、まず読まれないだろうし、読まれないマニフェストをまいてもしようがないしというのがありますね。

**記者：** これ、前回よりもちょっと薄目になっているという感じですか。

**市長：** 前回よりかは厚みが出ていますね。というか、項目も増やしていますし。

**記者：** 項目、増やしているんですね。わかりました。ありがとうございます。

**市長：** 今回、47ですので、前回だと26、カウントの仕方は27となっているので、そういう意味では倍近くになっていると思います。

**司会：** いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして終了いたします。ありがとうございました。

(以上)

---

この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355